

調査事項、調査内容および所感

会 派 名	そうせいと維新	氏 名	菊地 格夫
調査日時	2025（令和7）年 8月27日（水） 13：00 ～ 16：50（札幌市） 2025（令和7）年 8月28日（木） 09：00 ～ 16：30（札幌市） 2025（令和7）年 8月29日（金） 10：00 ～ 13：00（南幌町）		
調査事項	8月27日～28日（札幌市）第20回全国市議会議長会研究フォーラム 8月29日（南幌町）南幌町子ども室内遊戯施設「はれっば」		
調査内容	別紙記載		
所 感	別紙記載		

調査内容：

全国市議会議長会研究フォーラム in 札幌（2025年8月27日～28日）

1. 開催概要

日時：2025年8月27日（水）～28日（木）

会場：札幌文化芸術劇場 hitaru ※28日午後のエクスカーションはAコース（札幌市）

主催：全国市議会議長会

2. 基調講演（8月27日）

演題：「主権を預かる誇りと責任」

講師：伊吹 文明 氏（元衆議院議長）

要旨：

日本の政治体制：衆議院多数派が内閣を構成する「一元代表制」。地方自治は「二元代表制」だが、憲法上の位置づけが弱い。自治体は交付税・補助金に依存、自主財源強化が課題。議会予算の独立性を確保すべき。議員は「市民の声を首長に届ける役割」と「市民への説明責任」を併せ持つ。

3. パネルディスカッション（8月27日）

テーマ：「多様な人材の参画促進の観点から地方議会議員のなり手不足問題を考える」

コーディネーター：辻 陽 氏（近畿大学法学部教授）

パネリスト：牧原 出 氏（東京大学教授）、白石 洋一 氏（読売新聞）、山下 節子 氏（宇部市議会議長）、長内 直也 氏（札幌市議会議長）

主な論点：

主権者教育や家庭・職場の理解不足がなり手不足の要因。議員年金廃止以降、制度改革が進んでいない。報酬や社会保障の見直しが必要。特に、議員年金の廃止時には代替案を1年以内に出すと言ったまま15年近く経っている。社会保険への加入が議員の成り手不足解消に繋がる。パンデミック後、オンライン議会の制度化が不可欠。セキュリティやマニュアル整備により担い手拡大に繋がる。多様性の確保（介護や子育てとの両立支援、SNSの活用ルールなど）が課題。「議員は誰もがなれる」という環境整備と、若者への働きかけが重要。

4. パネルディスカッション（課題討議）（8月28日）

テーマ：「地方議会議員のなり手不足問題の取組報告」

コーディネーター：牧瀬 稔 氏（関東学院大学教授）

事例報告者：今井 康善 氏（岡谷市前議長）、平神 純子 氏（南さつま市議）、中野 進 氏（白山市議）

取組事例：

岡谷市（今井氏）：

R5 統一選で全国唯一の市での定数割れ（定数 18）。

シンポジウムや対話集会を開催し、議員定数削減を決定。

シンポジウムや対話集会で若い方と交流したことで「議員になりたい」という声生まれる契機となった。

南さつま市（平神氏）：

勉強会を通じて女性議員が増加。

「政治を学ばずに議員になる」ことへの問題意識から、研修の必要性を強調。

白山市（中野氏）：

豪雪地帯で議員の高齢化が深刻。

オンライン出席制度や長期欠席者の報酬減額を導入。

若者や女性を巻き込んだシンポジウムにより立候補者が増加。

共通の課題・示唆：

成り手不足解消は現職議員の「情熱」と「説明責任」にかかっている。小中学生・大学生への教育機会が将来の人材育成に直結する。議員の仕事を「職業」として認知させる努力が不可欠。

5. エクスカーション（8月28日午後 A コース）

札幌市中央区役所 視察

2025 年 2 月新庁舎へ移転。道産木材・レンガを活用、さらに「さっぽろなんせき」など地域資源を活かした建築デザイン。下水管渠の熱交換器から下水熱をヒートポンプで空調に利用している。下水管は常時 20 度の温度。冬場は施設玄関等のロードヒーティングにも利用している。省エネ効果は、年間約 2,500 万円の電気代削減。

エア・ウォーター水素ステーション札幌大通東 視察

水素ステーションは現在全国 156 箇所に設置されているが、黒字は東京都のみ（他は補助金依存）。北海道は「作る力」はあるが「使うプロジェクト」が不足している。雪が多く凍ることがある北海道では水素ガスの貯蔵庫が雪の重みでつぶれないような施設を建設する必要性があったが、経産省は補助金対象外とするなど地方での補助金の活用には首都圏で想定してない問題点に対処できていない部分がある。北海道にはバスやトラックの水素ステーション利用の実証実験はなく、本州のみだが、将来を見据えてバス・トラックも対応可能なサイズにしている。また、供給は 2 系統あり、1 つが点検で数週間利用できなくなってももうひとつの系統で使えるようにしてある。今は赤字だが、10 年後に黒字の計画で進めている。TOYOTA の新型車 MIRAI は水素を 3 分の充填で 850km 走行可能。

モエレ沼公園（雪冷房システム）視察

モエレ沼公園内の施設であるガラスのピラミッド「HIDAMARI」の空調は、雪冷房システム。3月に冬季間に積もった雪（押しつぶされて氷状になったものがよい）を貯雪庫に搬入し、溶けて流れる雪溶水（6度）を熱交換器で夏の館内の暖かい空気を冷やして館内の冷房にしている。8月末の視察時には全体の1～2割程度の残量とのこと。毎年9月には雪は全て無くなる。

6. 南幌町 子ども室内遊戯施設「はれっば」視察（2025年8月29日）

南幌町の概要：札幌市中心部から車で45分の立地。町の人口はR4年には7,378人からR6年には8,105人へ増加（全国町村でトップの伸び率で注目されている）。特に子育て世代の移住が顕著。南幌町 子ども室内遊戯施設「はれっば」は、R5（2023）年5月にグランドオープンし、開業1年で21万人を超える来場者数。

施設の特徴：地域資源活用で建材の9割が道産材。木造建築。館内は、おもちゃ会社のボーネルンドが監修したアクティブゾーンと、東京おもちゃ美術館が監修した木育ゾーンとに分かれている。

公民連携：DBO（Design-Build-Operate）方式（設計・建設・運営を一体で民間委託）。大和リースが整備、現在は株式会社オカモトが運営。

利用者層：利用者の8～9割が町外、特に札幌市から多い。

料金：町民は100円で一日出入り自由。低廉で利用しやすい。町外者は300円。

管理運営：入場者数をQRコードで管理、200人で入場制限。

評価：子育て支援施設として高い満足度。町民から「安くて一日遊べる」と好評。南幌町の移住促進・子育て世代の定住化に寄与している。町外利用者が多く、地域全体で子育てを支えるモデル。

課題：春～夏に入場制限がかかるケースあり。休憩スペース不足。

民間のメリット：館内休憩スペースに併設されたドトール（株式会社オカモトが運営）で収益が確保できる。

7. 所感

全国市議会議長会研究フォーラム in 札幌では、二日間の議論を通じて、「議員の成り手不足」は報酬や制度の問題に留まらず、教育・文化・ICT・市民との関係性といった広い視点からの総合的な課題であることを再確認しました。特にオンライン議会制度や子育て支援型施設などは、秋田市における議会改革・まちづくりにも直結する話題でもあり、それらが盛んに議論されていました。現時点では、秋田市の市議会議員選挙は高倍率で行われており、議員不足という問題には直面していませんが、議員報酬と定員のバランスの問題でもあり、今後深い議論が必要だと感じました。

全国市議会議長会研究フォーラムに参加して再認識したことは、今後の議会活動において、議員の役割を市民に理解していただけるよう発信を強め、また次世代の議員を育てる土壌づくりに努めることが長い目で見て重要であるということでした。制度改革だけでなく「議員を志す人材の育成」「子育て世代を呼び込む環境整備」の両面を意識した取り組みが必要であると感じました。

南幌町「はれっば」は、子育て支援と移住促進を結びつけた先進事例でした。秋田市においても「全天候型遊戯施設」整備は、少子化対策・都市間競争力強化の観点から学ぶ点が多いと思いますし、民間連携はPFI方式ではなく、DBO方式ではありましたが、民間が主導して設計・建設・運営している施設の使い勝手やデザイン性居住性の高さは目を見張るものがあり、長く使えて人が集まる素晴らしい施設となっていました。

特に今後重要になってくると感じた「視点」というか「感覚」ですが、施設の担当者（株式会社オカモトの社員）に施設利用者の町内外比率を伺った時、「利用者の 8～9 割が町外、特に札幌市からが多いです」と明るく元気に答えられた時に感じたものです。北海道という大きな地域は、東北のように複数の県をまとめた地域ではないので、道の中の全ての公共施設は、大きな 1 つの道という地域全体の市町村で共有して使う、という肌感覚があるのではないかと思ったことです。

小さなお子さんを持つ秋田県のご家庭では、冬に子どもを遊ばせるために山形まで車で行くのは当たり前、という話を聞いていましたので、これから生まれる数が少なくなっていく現状に対して、子ども達を秋田市や秋田県という行政の枠組みではなく、東北というもっと広い枠組みで大切に育てていくという視点や感覚が行政間であってもいいのではないかと思います。俯瞰した視点をもう少しピンチして、秋田市としての視点で考えると、もし今後本市で子ども向けの全天候型遊戯施設を整備する時には、立地をこれまでの秋田県児童会館のような秋田市の中心部に、と考えるのではなく、潟上市との境に近い金足地区や、由利本荘市との境に近い下浜地区などに、敷地を大きく取って広い駐車場を完備して作ることで、近隣市町村からの利用者をも見込むという考えも重要なのではないかと思います。



全国市議会議長会研究フォーラム in 札幌（2025 年 8 月 27 日～28 日）の様子。会場の札幌文化芸術劇場 hitaru はとても立派で、3 層バルコニー構造の劇場。オペラ・バレエなどの舞台芸術に対応できるとのことで参加者満足度の高い会場だった。



会場の札幌文化芸術劇場 hitaru の入口で。



8 月 28 日の午後に、エクスカーション（A コース）で札幌中央区役所を視察した。



札幌中央区役所の内部の様子。写真左は、道産材を建物の随所に使っている様子。この他にも、岩石や煉瓦なども使用している。写真右は、下水管渠の熱交換器から下水熱をヒートポンプで空調に利用している設備を見学している様子。

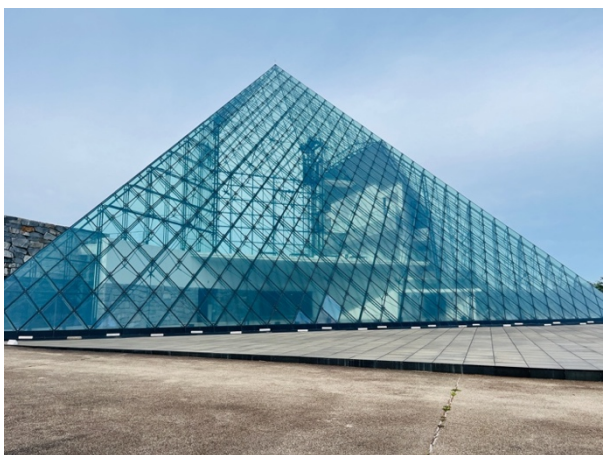


8月28日の午後に、エクスカーション（Aコース）で視察したエア・ウォーター水素ステーション札幌大通東の様子。バス・トラックも対応可能なサイズにしている。また、供給は2系統あり、1つが点検で数週間利用できなくなってももうひとつの系統で使えるようにしてある。



エア・ウォーター水素ステーション札幌大通東では冬季間の雪対策で雪の重みでつぶれないようなしっかりとした施設。

TOYOTA の新型車 MIRAI の様子。



8月28日の午後に、エクスカーション（Aコース）で視察したモエレ沼公園内の施設であるガラスのピラミッド「HIDAMARI」の様子（写真左）。空調は、雪冷房システムを使っている。写真右は、冬季間に積もった雪を入れる貯雪庫の様子。



南幌町 子ども室内遊戯施設「はれっぱ」の視察（2025 年 8 月 29 日）。写真左は、施設の外観。かなり広い中央公園の中にあり、外で遊ぶのもよし、中で遊ぶも良しの施設。写真右は入口の様子。



南幌町の子ども室内遊戯施設「はれっぱ」の中の様子。写真左は全体の様子。写真右は、東京おもちゃ美術館が監修した木育ゾーンの様子。



南幌町の子ども室内遊戯施設「はれっぱ」の中の休憩所の様子。休憩所は無料で使える。ドトールコーヒーが隣接しており、軽食等を購入することができる。